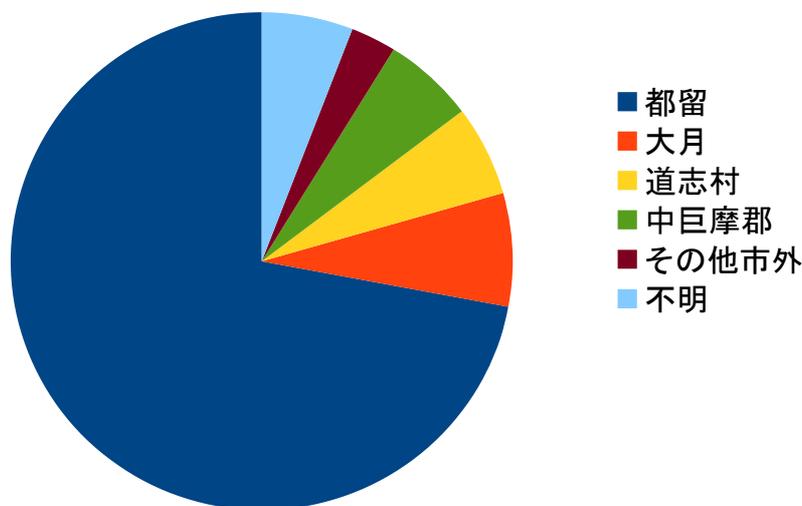


内容	<ul style="list-style-type: none"> ・トントンカチカチ工作 ・たき火料理 ・りさいくるひろば（衣類のお下がり交換） ・しっぽとりゲーム ・サッカー ・木にロープを張ったターザンごっこ ・ナイフを使った工作 ・手作りブランコ ・ダンボールの基地 ・旗づくり など
成果	<ul style="list-style-type: none"> ・午前中雨で参加率は低かったが、午後は晴れて参加率が上がった。 ・大人の参加率が高く、子どもと一緒に遊ぶ姿が多く見られた。 ・平日開催だと来れない人が来ることができた。 ・出張プレーパークの開催要望があった。 ・都留市外からの参加者も多かった。 都留市のPRになった。 ・講師の天野さんの遊び場実践が学べた。 ・バールで薪割りなど、防災時に役立つ情報を得られた。
今後の課題	<ul style="list-style-type: none"> ・遊べる仕掛けをもっと増やす ・幅広い年齢層の参加を促す ・プレーリーダーの育成 ・企画・運営を一緒に行える仲間を増やす (プレーパークの活動に参加しやすい提案をする) ・当日、会場までの案内を強化する。 ・受付を必ず通るようなしかけ・声かけをする。 ・参加者の声を聞く。アンケートを必ず実施する。

参加者分布

参加合計68名

都留市49名（72%） 大月市5名（7%） 道志村4名（6%） 中巨摩郡4名（6%）
 その他市外2名（3%） 不明4名（6%）



当日の様子







キッズフェア まほらの森2015 ～森からの贈り物～

2015. 10. 18 (日)
10:00～14:00 岩田絵里子

◎きっかけ

このイベントを知ったのは、富士吉田市民会館2F（富士吉田市立図書館の上）でチラシを見て。

◎レイアウト

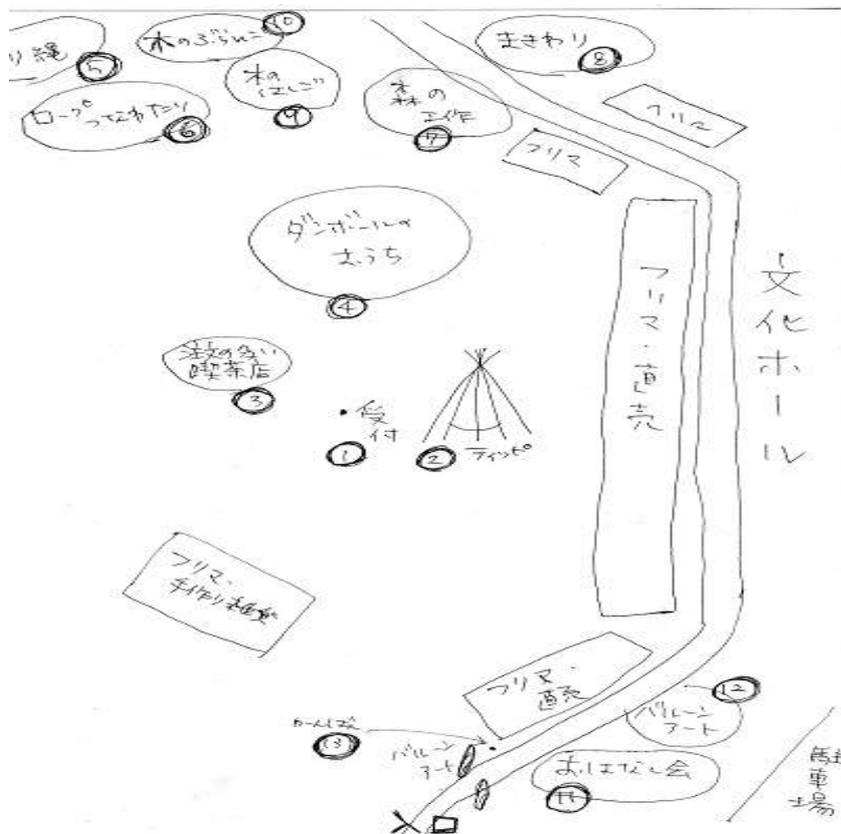
○プレイパークブース

- 1、プレイパーク受付
- 2、ティッピー
- 3、注文の多い料理店
- 4、ダンボールのおうち
- 5、ぶり縄
- 6、ロープ綱渡り
- 7、森の工作
- 8、薪割り
- 9、木のはしご
- 10、木のぶらんこ

○その他子供向けブース

- 11、おはなし会
- 12、バルーンアート
- 13、受付看板

※詳細は別紙



◎開催するまで、そして現在

今年で3年目。1年に1回、町のイベントに、一緒にやろう！と持ちかけ、有志で始めた。

子どもたちに 森とつながってほしい そんな想いから。

3年目の今年、ようやく助成金が出た。ほぼ材料費。人件費は出ないが、弁当は出る。

代表は、一般社団法人 地域ESD事務所つむぐ 代表理事 村山敬洋さん（ダニエル）

◎まとめ

・プレイパークが好き！森と人を繋げたい！子どもと森で遊びたい！という人たちが集まって、みんなでやってる、楽しんでやってるという雰囲気が出ていて、楽しかった。

・子どもも多く来ていた。

・ダンボールのおうちは、シンプルで自由度が高かった。

そして、卵パックや、汚れ防止のエプロンの用意、自由に遊びやすいよう配慮されていた。

・ぶり縄は、聞けばロープワーク等いろいろ教えてもらえた。木登りが楽しくなる。

・注文の多い喫茶店は、ただもらうのではなく、木の枝や落ち葉を拾って得る、というのがいいし、面白かった。それをきっちり管理しないというのもいい。 ゆっくりできるよう、いすや絵本の配慮も大切。

・ぶり縄は、聞けばロープワーク等いろいろ教えてもらえた。

・スタンプラリーも、絵はがきだったり、プレゼントが選べる帽子付どんぐりのネックレス紐調節ありとよく考えられていた。

・ティッピーは、まず目を引く。たくさんの子が遊んでいた。

・おはなし会、やっぱり年配の方の読み方はいい！！

・森の工作は、有料なのであまり人気がない。薪割りはその奥なので、目が向かない。

・子供向けブースが分断され、行き来しにくかった。

・自由に（気兼ねなく）できる、自然と森を意識できる、よく考えられた遊び場でした。

◎森のプレイパークブース

○注文のおおい喫茶店



板を並べて木の周りに即席ベンチを用意。
本棚やいすを置いて、ゆっくりしてくださいね
という雰囲気を出す。



看板にはメニュー

コーヒー 小枝3本

ココア 小枝5本 葉っぱ10枚

十六茶 小枝2本

マシュマロ+クッキー 小枝8本 葉っぱ5枚

ポテトフライ 小枝6本

☆焼きたいものを持ってきて下さい♪

枝など正確に数の確認はしない。自己申告制。

マシュマロは自分で焼いて食べれる他、

フリーマーケットで入手したサツマイモなども

焼いてもらえる。



空き缶焚き火2台（マシュマロ）と

ロケットストーブ 1台

（お湯・土鍋焼き芋・ポテトフライ）

コーヒーや、ココアは湯のみ茶碗でいただく。

高校生か大学生くらいのお兄ちゃん店長。

（赤いエプロン）大人スタッフもあり。

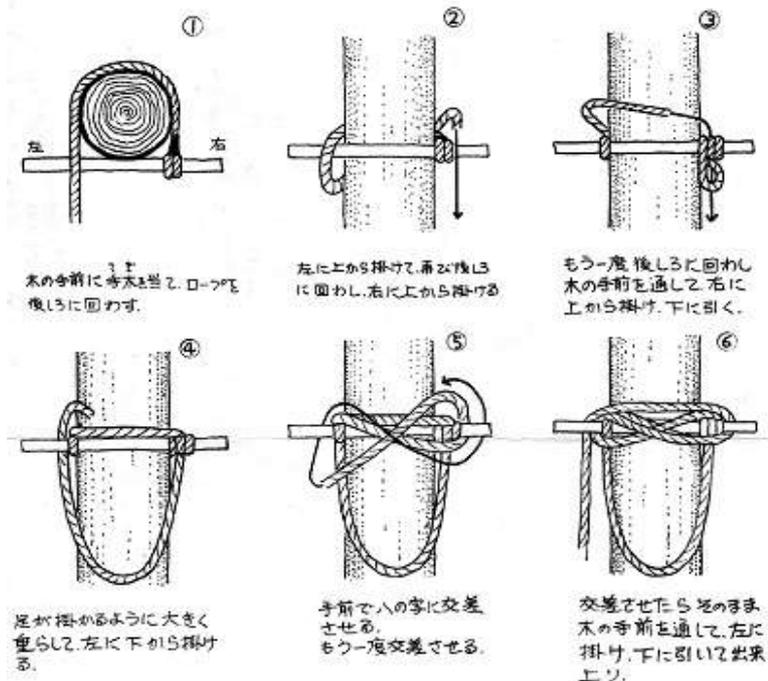
小学生スタッフもいて、

コーヒーを入れてくれた。

○ロープで遊ぼう（森林工房ゼブリ舎）

ロープを持って木に登ろう♪ 11:00～ 先着5名 に参加してみた。

ぶり縄の掛け方



林業の技（ぶり縄）について説明
森林工房ゼブリ舎 佐久間さん
（森林インストラクター）

子どもと森をつなげたいと
環境教育プログラムを行っているそう。



ロープの先に枝をつけて、枝に巻いていく。
しっかり締めて、縛らない。
木登りの際に、足場を作りながら登っていくロープワーク。
林業の現場では、ロープの両端に枝をつけ、外しながら登っていく。
思ったより簡単にできたが、構造上足場がぐらぐらする。
今の労働基準法では使えない技なんだけどね、と佐久間さん。



ロープの綱渡り

足場のロープを結ぶ木には、竹で保護をする。

その他、はしごやブランコもあって人気。

○森のジャングルジム



ティップイの上のロープを垂らし、
下に木を渡していた。
ハンモックで寝たり、木を渡ったり、
子どもたちは自由に遊んでいた。

○森のおうちづくり (森のようちえん きらきら星)

ワークショップ ダンボールのおうち



材料：ダンボール、空き箱、
トイレットペーパーの芯など。
ガムテープ、はさみ、色マッキー
絵の具（赤・黄・青・白の4色）、
絵の具用卵パック4〜6個分切って、筆
（絵の具一人一つずつ持てる！！）

普段ワークショップされているようで、
慣れている感じで、自由にやらせて
もらえるのがとてもよかった。

材料がシンプルなのもよかった。

タープで日陰があるのも嬉しかった。

できているおうちに色を塗るだけか、最初から作るか選べる。
服を汚したくない子のために、スモックが用意されている！



絵の具でひたすら、ひたすら。



キャンピングカーなのだそう。まずタイヤをつけた。
中にも馬の部屋があり、坂を上って入れる。



カラフルな家。自分が入れます。



煙突（左端）の穴をあけてもらう以外は全部自分で。
自由にやらせてもらったのがよかった。
お昼食べるのも忘れて100分経過。

○まきわり&森の工作



まきわり
子どもがまきわりをしていた。
時間がなくて行けなかった。



森の工作
リース・黒板作りのワークショップ
ほとんどが無料のワークショップの中で、ここだけ
有料（各300円）だった。大人の参加者がいた。

○スタンプラリー

各ブースに1つはんこがよういしてあって、
スタンプラリーができた。



全部集めるとプレゼントがもらえる



※この紙は、はがきになっている。



プレゼントは、
どんぐりのネックレス
4種類あって選べる



どんぐりは帽子付。
フックねじでとめて、毛糸のひもをつける。
ひもは、長さ調節可。



どんぐりの種類について希望があれば
説明もしてくれる、本の準備もあり。

◎レイアウト

ぶらんこ



はしご



薪割り

フリマ

ロープ綱渡り



ダンボールのおうち



森の工作

ぶり縄



フリマ・直売品

文化ホ
ール



フリマ・直売

フリマ・手作り服
作品展



受付

パフォーマンス時間	
10:30	バルーンアート(バルーン屋)
11:00	ロープで遊ぼう(もじの会)
11:30	子どもシアター(劇団の会ずらん)
12:30	バルーンアート(バルーン屋)
13:00	子どもシアター(劇団の会ずらん)
13:30	ロープで遊ぼう(もじの会)



バルーンアート
おはなし会



注文の多い喫茶店



入り口

宝の山プレーパーク 平成27年度 視察報告書

日時	平成27年 12月7日(水)
場所	神奈川県 厚木市郷土資料館
講師	NPO法人日本わらべうた協会 理事長 田村洋子氏
テーマ	わらべうたで遊ぼう
目的	なぜか気になるわらべうた。「わらべうた」とは何か?を知るため
NPO日本わらべうた協会の目的	この法人は、子どもをはじめとする日本及び世界各地の人々に対して、日本と世界に伝承されてきたわらべうたやわらべうた遊びの普及や伝承、ならびに音楽活動を通じての幼小一貫教育に関する事業等を行い、文明の発達に伴う現代社会において、母国語と精神の離乳食であるわらべうた及びわらべうた遊び等を通して人間としての五感を磨くことに貢献し、わらべうたやわらべうた遊びに象徴される日本の伝統文化の継承に寄与することを目的とする。
成果	・わらべうたは、日本の文化であり、遊びである ととても奥深い。 だから、プレーパークで取り入れたいのだと納得できた。
今後の課題	・わらべうたについて、歌い伝えていく必要がある。 ・プレーパークに取り入れる。
わらべうたとは?	わらべうたは、遊びである。 日本の文化。地域に戻す必要がある。 わらべうたは、教育じゃない。 だから、決まりなんてない。 何歳にはこのうた、とか、この振り付けじゃないといけないとか。 遊び方は何だっていいし、何を使っても遊べる。 文字の読めない時期に、わらべ歌を聞く。 大好きな人の優しい声で、心安らぐ心地いい音。 同じ歌で何種類も遊べる。 最初はだっこでゆすってもらって。 やさしく触ってもらいながら 自分で動けるようになったら、自分でやってみる。 歩けるようになったら、歩きながら 二人でやってもいいし、輪になったやってみてもいい。 お手玉みたいな道具が使えてもおもしろい。 たくさんの歌を知らなくても、いくつもの遊びが生まれる。

同じ歌でも、できることが増えていく。
子どもは大きい人を見て学んでいく。
どうやったらできるか、考え、工夫する。

「いつできるようになるのかな？」
大きい人は待っててあげればいい。
「できない！くやしい！」
「やった！できた！うれしい！！」
そうやって遊びながら成長していく。

今は便利になって、ボタン一つでいろんなことができる。
指先を使わなくなってきた。使わないと、力加減がわからなくなる。

昔遊びは、指を使う。頭を使う。
若返りにも、これが一番いい。
遊びながら脳が活性化されていく。
同じ歌をおじいちゃんおばあちゃんと孫と一緒に歌える。遊べる。
もしかしたら、曾祖父母と曾孫かもしれない。

うた一つで、共有できる。
言葉と、心を育てることができる。

わらべうたには、心が込められている。
ただ遊ぶだけでなく、背景まで考えると、本当に奥深い。

大人だって、お手玉とかをやってみると、意外と難しい。
大人になってからも、遊ぶことは大切。
「できない！くやしい！！」
「やった！できた！！」
の経験を積む。

そうすれば、子どもに
「何でできないの？」と言わずに待つことができる。
できたときに、一緒に喜ぶことができる。

わらべうたは、子どものものだけではない。
大人だって、高齢者にとっても、リラックスとなり、いい刺激となり、自信となる。

	<p>遊び込めば、自分は何が得意か、知ることができる。 いろいろな遊びの中で、これだけは負けない！を見つけることができる。</p> <p>同じ歌で何度も、遊ぶ。 工夫しながら 遊ぶ。 いろいろな人と 遊ぶ。</p> <p>そうやっていくことによって、伝わっていく。</p> <p>便利になればなるほど、心がそがれていく気がする。</p> <p>だからこそ、今、遊びの重要性が見直されている。 遊べる場の設定 さえあれば、子どもは遊べる。大人だって、遊べる。</p>
感想	<p>ともすく広場で話したことと重なっていました。 プレーパークで大事にしたいことにも、繋がってる。</p> <p>おもしろい！！！！ だから今、「わらべうた」がやりたいのだ！と納得。 大人も子どもも、一人でもみんなでも、遊べる最強アイテム。</p> <p>これを日常に戻したい！！！！</p> <p>でも、昔遊びだけがいいというのではない。 東京おもちゃ美術館でおもちゃコンサルタント養成講座の講師も勤める田村さんは言います。 最新のグッドトイにもいいものはいっぱいある。</p> <p>会場には、最新のグッドトイに夢中になっているTの姿もありました。 いいものは、いい と認める。 他をダメ！ といっているうちは、いいものが見えないよ、と。</p> <p>「実践すること」「続けること」「遊ぶこと」についていろいろを考えることができ、 2年目にステップアップするためのヒントをたくさんいただきました</p>

◎きっかけ

小学校で配布される 県立科学館・県立愛宕山こどもの国 チラシを見て。

◎たき火イベント 内容

- ・ドラム缶を半分に切ったもので、スタッフが落ち葉を焼く。(火の管理はスタッフ2名)
- ・最初のマッチは、子どもが行う。
- ・焼きたいものを各自持ち寄る。それを見て、次に持ってくる人がいる。
- ・今年で6年以上。(以前は年開けもやっていたが、現在は12月に2回のみ。)

◎昔遊び

こま・けん玉・わなげ・めんこ などが置かれている。(めんこをやっている人はいなかった)
その他、なわとび、フリスビー、竹馬、フラフープなどで楽しんでいる姿があった。

◎落ち葉のプール

たき火が午前で終了して、午後は落ち葉のプール開催。

らいおんプールで、落ち葉をためて遊ぶ。(葉っぱを投げる、とびこむ、走るなど)

隣の大きなプールでは、チョークでお絵かき。

◎感想

- ・科学館の隣で、遊具もたくさんあるので、もともと週末には人が出入りする場所である。
- ・たき火イベントは人気だが、消防署からの警告で、警報(乾燥・強風)が出た時には行えない。以前は冬の間やっていたが、現在は12月の2回のみ。当日も強風のため、午前で終了となった。スタッフさんは、それが残念そうだった。
- ・昔あそびは楽しむ姿が見られた。フリスビーをやっている人が多かったように思う。
- ・落ち葉のプールは、遊具から離れたところにあったが、変形自転車へ向かう道の途中にあり、それも目につくポイントなのかな と思った。
- ・落ち葉プールでは真ん中に噴水があり、注意が必要だった。あまりダイナミックな遊びはしていない。
- ・プールが大きなキャンパス。楽しかった。これを取り入れたい。

◎総評

常に人が出入りしている場所なので、行きやすい。遊びやすい。

- ・たき火を楽しみにしている人もいて、しっかり準備して楽しんでいる親子がいた。
- ・県の施設で、制約があり、スタッフとしてはもっとチャレンジした遊びもさせたい思いがあるが、それがジレンマのようだ。
- ・昔あそびは遊び方がわからないものがある(めんこなど) どう繋ぐか考える必要がある。
- ・チョーク遊びは面白い。宝の山プレーパークでも取り入れたい。
- ・落ち葉プールのところに、子どもの首の高さにロープがあって危険だった。スタッフに伝えたが、勝手に外せないようだった。
- ・宝の山プレーパークに興味をもってもらえた。そのうちコラボしたいと言ってもらえた。
- ・山梨の人たちは、あまり「プレーパーク」に馴染みがない。もっとこの遊び場を広めたい。